キャラクター名: 流月 明兎（あきと）

プレイヤー名:

シンドローム	ブラム＝ストーカー ハヌマーン	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	18(誕生日が早い)	性別	女性
覚醒	憤怒	衝動	吸血	初期侵食率	34 %
出自	待ち望まれた子	経験	親友	邂逅	友人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	1	3			6
感覚	3	0	0			3
精神	2	0	0			2
社会	1	0	0			1

HP	34
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚	2		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
赫き刃	白兵	6r+2	0	10		ｺｽﾄ3 威力10 HP2消費
赫き刃(100%)	白兵	6r+2	0	12		ｺｽﾄ3 威力12 100% HP4消費
		0				
環伐	白兵	10r+2		10		ｺｽﾄ8 C値8 威力10 装甲無視 命中時HP8回復

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服	1	1			見た目が一般的な服なのを良い事に制服みたいなコーデ

合計装甲：	1	合計回避：	0

所持品	
携帯	
制服	
カジュアル	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
家族	P 誠意	N 悔悟		
親友(幼馴染)	P 尽力	N 偏愛		
動宮 遊也	P 純愛	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P：	1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
赫き剣	1	3	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	[Lv*2]以下のHPを消費して作成。攻撃力+[消費したHP]+8。							
影走り	1	2	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	1シナリオ中Lv回、離脱封鎖接触無視の戦闘移動を行う。							
ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ：ブラム	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	-	-	
効果：	C値-Lv。							
渇きの主	2	4	ﾒｼﾞｬｰ	至近	単体	対決	-	
効果：	装甲無視 命中時[Lv*4]点のHPを回復。							
電光石火	3	3	ﾒｼﾞｬｰ/ﾘｱｸｼｮﾝ	-	-	-	-	
効果：	ダイス+[Lv+1] 1D点HPを失う							
ブラッドバーン	3	4	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	対決	80	
効果：	攻撃力+[Lv*4] HP5点消費							
かぐわしき鮮血	★							
効果：								
ブラッドリーディング	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

服装が徹底してワイシャツ、ネクタイ、ズボン。
特徴：黒髪ロング、目が(やる気がなさそうって意味で)死んでる、乳ましい。
大切なもの、こと：親友、復讐の誓い、両親
嫌いなもの、こと：人、親友を悪く言う者、背教者の毒液、FH、ジャーム、炊飯に失敗した時のドロッとした米

長年子供の出来なかった夫婦がやっとの思いで授かった、待ち望まれた子供である。安易に分かる様に溺愛されて育った。
近所に住む親友の少女は、保育園、小学校、中学校を共に過ごした幼馴染である。

両親に溺愛されて育ち、欲しい物はある程度与えられ、それなりに不自由なく育った明兎は、これといった趣味もなく毎日を適当に雑に生きている。それでも保育園からの付き合いである親友と過ごす時間だけは楽しく過ごしていた。なんて事のない些細な出会いだった、たまたま席が隣だった、好きな遊びが一緒だった、好きな番組が同じだった。たったそれだけの些細な事から始まったかけがえのない大切な関係。明兎にとって何よりも大切な事になっていた。

学校の帰りに親友と遊んで帰り家まで送ったり等、家に帰るのが両親から心配されたり怒られたりしたのだが、明兎の中で次第に過保護な両親の存在が鬱陶しくなっていった。それからしばらくして、街に通り魔が出るという噂が広まり始めた。噂は広まっているのだが、一貫して統一性の噂にデマだと決め付け、学校帰りに街へ行くなという両親の言葉に、「そんな者は居ない、噂を広めて楽しんでる連中の思い通りになるのも、二人の言葉も鬱陶しい」と淡々と投げかけてしまった。

それから親友が街に買い物に行きたいが、両親が忙しく行く事が出来ずに困っている事を明兎に相談すると、「そんな者は居ない、仮にもし居たとしても私が貴女を守るから、大丈夫」そう言い切り、親友と共に街へ行き無事に買い物を済ませた帰り道、路地から断末魔が響き、親友を守る様に抱きしめているしかなかった明兎、偶然にもすぐ近くに交番があった為、駆け付けてきた警官に保護されたが、明兎はその路地から尋常ではない速度で何者かが走り去っていくのを見ていた。その断末魔の聞こえた路地では通り魔の犯行と思われる殺人事件が起きていたのである。警官の連絡で迎えに来た二人の両親は、彼女らをきつく叱り、そして無事であった事を心から喜び涙を流していた。明兎の胸を深く抉る様な不快感が襲った。自分はなんと愚かだったのだろう、心から心配する両親に対しあろ